



「私ら夫婦と 家畜のかかわり」

肉用牛経営：

新発田市荒川 木村 賢爾氏



昭和17年、私が5歳の時家族全員が旧満州開拓団として入植しました。父が開拓団の世話役だったこともあって、国から種牝馬を借り受けて農耕馬繁殖の手伝いをしていました。小学校になった頃から父、兄に抱かれ馬で大陸の草原を駆け回った幼少時代の思い出が今でも脳裏に焼きついています。終戦後、帰国し当地の開拓に入植しました。その後、兄は上京しましたので私が農業を継ぐことになりました。私は牛・馬が大好きだったことから酪農で生計を立てようと思いつき昭和34年、高校3年生のときに父に乳牛1頭を購入してもらい卒業と同時に酪農経営を開始し、年々増頭しながら17年間搾乳で生計を立ててきました。この頃になって父も高齢となり、私が父の名代として集落の会合や役員を行うようになり、搾乳時間も守れず牛の成績も上がらなくなり乳用種肥育に切り替えました。当時は1頭50万円にも売れ多頭すればその分増収になり牛舎を増築しました。長男も勤めの傍ら農業を手伝う事になりましたが、専業には規模も小さいことから、借地を含め水田3haと肥育牛100頭の複合経営基盤を作り上げこれで大丈夫と思いました。

しかし、牛肉の自由化、米価の値下がり等の外的要因、私共夫婦の高齢化や長男の勤めが忙しくなる等労力面の要因もあり肥育牛規模を縮小しました。

現在は夫婦で交雑種60頭の肥育と開拓当時、家族で精魂込め切り開いた農地の荒廃を防ぐために繁殖和牛5頭を飼い牧草を取穫しています。この先は、農地再活性化を目指して、耕作放棄地の一部に電牧等巡らせ繁殖和牛を放牧するなどして肉用牛経営を継続して行くつもりです。子や孫にもどこにいても常に開拓者精神を持ち続けて欲しいと願っています。

「フリーストール 体系を志して」

酪農経営：

津南町外丸 福原 豊氏



振り返って見ると、規模拡大から13年を経過した。その間、当初の計画どおり行かないことも多く、順調とはいえない時期もありましたが、あと2年で、拡大時に投資した5,000万円近い資金を回収する目途がつけました。

津南町では、昭和54年、55年にかけて酪農団地の建設が計画されましたが、自分は土地を確保できなかったことから、参加を断念しました。そのため、後継者育成資金を利用して、昭和55年に自宅近くに16頭牛舎を新築しました。当時は、自分も若く、バケツ搾乳、一輪車による堆肥出しを行ってききましたが、平成4年に、頼りにしていた父がサイロに転落して亡くなりました。

予期しない突然の出来事による労力不足で、将来の酪農は省力化できるフリーストール体系でやりたいとの思いがますます強くなり、平成5年に新築移転に踏み切りました。当初、住宅に近い場所での建設を計画しましたが、住民説明会は不調に終わりました。建設地を確保できなかったら酪農をやめるつもりで土地探しを行いました。住宅から車で15分程かかる現在地に地主の理解によりやっと土地を求めることができました。平成13年には、廃業する「きこの業者」施設の鉄骨を活用して育成牛舎を建設し、ほぼ自家育成牛による牛群となりました。昨年来、購入飼料の値上がりにより経営的に厳しくなっていますが、これまで、10haの飼料畑を確保し、継続してきた自給粗飼料栽培の重要性を改めて認識しています。

これまでは、妻と2人で共に頑張ってきましたが、数年後には大学に進学している長男が後継者として就農する予定です。常雇も加えて、経産牛100頭規模の酪農を今後の目標としていますが、生乳の生産調整の動向を見ながら、和牛生産も視野に入れた経営を模索しています。

規模拡大後は病気で休むこともできず、苦勞も多かったが、今後も妻と共に、ゆとりを持った酪農経営を地域の酪農家と協力して歩んでいきたいと思っています。